

自然を見つめる

2025年 12月号

VOL. 134

西東京 自然を見つめる会



コバンソウ…イネ科

黄褐色に熟した実を、小判に例えてこの名が付いた。明治時代に、鑑賞用にヨーロッパから持ち込まれたものが、野生化した。道端に他の野草と交ざって群生するが、穂先が青い頃は殆んど目立たない。

ヒメコバンソウ…イネ科

コバンソウに似ているが、ずっと小さく愛らしいので、この名が付いた。ヨーロッパ産の一年草。茎の上部で細かく糸状に枝分かれをして、小さな実をビッシリ吊り下げる。

文と撮影・山本昭六 撮影地 コバンソウ…ひばりが丘団地 6月

ヒメコバンソウ…新青梅街道 路傍

みどりの散策路めぐり「まちの里山コース」の下見に参加

今年度2回目の標記の散策路めぐりの下見に参加する。パンフレットには「下保谷の歴史をしのぶ社寺、屋敷林や豊かなみどりと田園風景がゆっくりと楽しめるコースです。特に、保谷北町緑地保全地域周辺の畑やあぜ道、雑木林の景観はかつての懐かしい風景を思い起こさせます」とある。

10月15日(水)9:30、保谷駅北口広場にみどり公園課職員2名、当会2名集合し、まず近くのあらかしき公園に着く。本番ではここでコースの見どころと注意事項を話し、準備体操をして出発である。

以下、順路のみに留める。北上し市民貸農園や農産物・花直売所を眺め、下保谷森林公園(4460㎡)に到着。西東京市の木50選のNO1ミズキは元気である→福泉寺(かつての下保谷村鎮守社別当寺、三十三番神像が伝わる)→駅前道路を北上し、新設の都道を西に向かうと、程なく保谷北町緑地保全地域(約1ha)→北宮之脇公園→(都道を渡り)→天神社(かつての下保谷村鎮守社)、50選の木NO2イチョウも元気である→(白子川源流暗渠を渡る)→下保谷四丁目特別緑地保全地区(旧高橋家屋敷林)に到着。丁度、保存会の皆さんが除草等の管理作業中である。ご苦労様です。毎週金曜日オープンで季節のイベントも開催されている。あらかしき公園に戻り、本番を期して昼前に解散する。

本番10月22日(水)早朝、天気予報を聴き、会員と市に雨天中止の連絡をする。市から申し込み市民に中止の連絡をするも、連絡が取れなかった2名の市民とコースを巡ったと後でお聞きする。お疲れさまでした。中止の判断は難しいですね。(11月5日(水) 大矢 隆治 記)

目次

区分	内容	執筆者	ページ
表紙	コバンソウ、ヒメコバンソウ(イネ科)	山本 昭六	
巻頭言	みどりの散策路めぐり「まちの里山コース」の下見に参加・目次	大矢 隆治	1
自然観察	秋の親子自然観察会に参加して	片岡 みつえ	2
活動報告	第19回したのや縄文の里 秋まつりに参加	大矢 隆治	3
同上	第42回芝久保公民館公民館まつりに参加	牧原 暁子	4
講演会	アースデイ西東京2025講演会等の実施報告	山口 建太郎	5
活動日誌等	自由学園秋の自然観察会に参加して・活動日誌	片岡 みつえ 大矢 隆治	6
会員寄稿	2025年の夏 東京都緑地保全地域碧山森の様子 2題 3つのモンスズメバチの巣を観察して	渡部 國夫	7 8
同上	古寺巡礼	石原 誠	9
植物雑感	ゲンノショウコ	緒方 信子 菅北 正子	10
裏表紙	向台植物公園・季節の花シリーズ-27	緒方 信子	

秋の親子自然観察会に参加して

片岡 みつえ

9月27日(土) 今年は猛暑日続きなので、例年8月の行事でしたが、1ヶ月程後へずらし当日を迎えました。前日雨が少し降ったことで薄曇りの朝となり、9時半にはお母さんの家族4組、お父さんの家族1組、子供は5歳から小学3年生までの、計11名・5組の親子。講師としてパークレンジャーの堀内浩揮さん、当会員から7名の参加です。

集合場所は例年いこいの森公園のセミナールームでしたが、今回は谷戸公民館での勉強会です。出発前に、講師の堀内さんのお話の中で、カブトムシ、トンボ、セミのパネルを食い入る様に子供達は見入っていました。最後にオオスズメバチのパネルを見て注意する事も学びました。



さあ出発です。バス通りを渡り、虫カゴと捕虫網を持ちいこいの森公園へ、気温も涼しく絶好の捕虫日和となりました。

公園の入り口でのイベントもありましたが、子供達はそれに目もくれず野原へ、大小のバッタが飛び交っていました。前日雨が降ったせいか小さなアマガエルを捕まえて手の中で転がしていた子に、講師の堀内さんが虫カゴに入れて保存するように伝えてました。

エゴノキではサポニンがあるので石鹸として使われていたこと、その実にはエゴヒゲナガゾウムシが卵を産み付けていると、実際に実を取って見せてくれました。近くに西東京市の木50選のNO28エノキの大木が有り、改めてその幹周りの太さと背の高さに感心しました。またイイギリの赤い実がブドウ状に枝から下がっている様子が目につきます。クヌギとコナラの違いを葉で学び、ゾウムシがその実に卵を産んで自ら枝を切り



落して地下で成長する事も学びました。林の中にツルボが咲いているので踏まないようによけて歩き、ハギも咲き始め、水辺にヒガンバナの鮮やかな赤が人目を引き付け、9月らしさを一層感じ、キノコ類も数種類成長してました。

梅林を抜けると「バッタランド」と名の付いた野原があり、上空ではトンボが群舞しているのを見ると、子供たちは捕虫網を振り回していましたが、それに捕まるトンボではありません。さすがに秋だなあとここでも感じました。その様子を見るとこの行事が9月で良かったと意を強くしました。

セミの抜け殻、木の実もたくさん拾って谷戸公民館へ帰り、獲物を絵に描き一人ずつ発表し合い、恥ずかしそうにしていた子供でも最後までお仕事をやり切りました。

講師の堀内さんは優しく子供目線で、時には虫のパネルを使い、わかり易くお話して下さるので、参加者全員じっと聴き入っていました。

捕った昆虫たちは、帰りに元の野原に戻してやりましたが、まだ虫捕りを止められない一部の子供達がそのまま野原で元気にトンボを追っている姿を見て、良かった!! 良かった!!

第19回したのや縄文の里 秋まつりに参加

大矢 隆治

10月5日（日）、昨夜の雨も止み曇り空の下、8時15分にエントランスに30団体程が集合し、準備説明の後、ボランティアさんを紹介される。“よろしくお願ひします”と挨拶する。

早速、ブース地に向かう。途中の園地ではもう会員がカラムシ（灌木）の茎を採取している。当会のブースは例年同様、会場西の樹林地前で、①縄文の糸・カラムシ（灌木）の茎から糸を引き、しおりのリボンにしよう ②縄文人が食べた？木の実やドングリの名前を当てようのワークである。

- ① カラムシから糸を引くワークでは、テント裏にブルーシートを敷き、5基の糸引きセットを配置し、まずボランティアさんと共に予行演習をする。

10時からの広場でのセレモニーを待ち、オープンする。オープンと同時に親子さんが集まり、当方がワークの流れを説明すると、納得してカラムシの茎から糸引きが始まる。会員やボランティアさんの対応は忙しかったが、会話が微笑ましかった。そして引いた糸を当方で用意したラミネートのしおり（しーた、のーや、土器・石器や会員が描いた野草の花をプリント）を選び、糸を通しリボンを結び完成である。記念のプレゼントに親子さんの笑みがこぼれる。



今回良かったのは、隣のブースに縄文の布・編布作りのワークがあり、カラムシ等の糸を引き・紡ぎ、縄文人が衣服を作ったであろうストーリーを指さして説明できたことである。



- ② 木の実やドングリの名前を当てようでは、トチの実、クリなどの実やドングリを机上の箱に並べ、その名前や由来などについて子供たちと楽しく会話し、スタンプラリーカードにハンコを押したりしました。

なお、今回ボランティアさん3名の応援と会員延べ10名の参加により、いささか余裕ができて、昼頃30分程度、ワーク休息中の掲示をして、昼食を頂くことが出来ました。しかし他のブースやイベントを見て回る余裕がなかったのがいつもの反省点である。

3時10分前には用意したしおり130枚も無くなり、3時のクローズを無事迎えることが出来ました。最後に、備品を整理し本部に無事終了したことを報告して、帰路に就いた。

会員の皆さん、ボランティアさんお疲れさまでした。後で事務局から1400名もの市民がまつりに訪れたとの報告がある。大賑わいでした。

（今年は、下野谷遺跡国史跡指定10周年）

第42回芝久保公民館まつりに参加

第42回「みんなで楽しむ芝久保公民館まつり」は、2025年10月25日（土）～26日（日）に開催されました。

あいにくの雨降りでしたが、小雨だったのでお客さんもさほど減らずに、わが西東京 自然を見つめる会の1階正面のブースは、今年も大盛況でした。

<展示の部>では、①道端の野草たち（春・夏・秋）の写真展示 ②向台公園やみどりの散策路めぐりの散策路など会の活動紹介とビデオ放映 ③会報（カラー版）の展示とバックナンバーや草花のしおりを希望者に配布しました。

<体験の部>では、この地で採れた素材を使っての工作 ①ダイオウショウの松ボックリ ②モミジバフウの実やドングリのオブジェ ③ローズマリーのリース作り ④竹のストラップ作り ⑤木の枝で遊ぶなど、に大人も子どもも夢中になって取り組みました。

用意した植物は実に多様で豊富でした。運び込んでくださった会員にその名前の一部を教えていただくと、この地の秋の実りの豊かさに驚くとともに用意していただいたご苦労に感謝、感謝です。

例えばローズマリーのリースを飾った植物は、アジサイのドライフラワー、ヒメコバンソウ、スモークグラス、ラベンダー、オトギリソウ、クリスマスローズ、ステビア、ヒメウス、サルトリイバラやバレリーナというばらの赤い実 etc. リースの台はヤマイモやブドウのツル。木の枝（Y字型の枝）に使



われたのは、カナメモチ、カキ、コデマリ、キンモクセイ etc. 作業テーブルに山盛りだったこれらの材料は二日間ですべて使い尽くしました！

そのほか、金ピカのプラの飾り、キラキラ光るビーズ、毛糸、小切れ、竹ストラップなども大人気でした。前日の準備から後片付けまで、そして自転車整理と受付補助、参加の皆さん、ご苦労様でした。

（牧原暁子）

アースデイ西東京2025講演会等の実施報告

山口 建太郎

今年度のアースデイ西東京は、11月2日（日）午後2時から午後5時まで「公民館市民企画事業」として田無公民館で開催されました。

10月28日から11月2日まで同公民館ロビーで講演会の概要や当会を含む参加市民団体の活動をPRする為パネル展示を行いました。また、講演会当日の午前中には、田無公民館・都立田無高校及びアースデイ西東京の協働で石神井川清掃活動を実施しました。

講演会冒頭に都立田無高校ボランティア同好会の6名の生徒が、清掃活動の体験について、今日はプラスチック系ゴミ、包装容器、衣類など45リットルのゴミ袋で10袋以上収集しゴミの多さに驚いたこと、蛇の抜け殻や美しいカワセミに出会ったり、ザリガニを捕獲し、トンボに触れたりして身近なところに豊かな生態系があることが分かったこと、普段は入れない川原をきれいにしていくのは楽しかったと述べ、最後に“清掃しなくてもきれいな川を保ちたい”と報告された。



続いて「未来に希望の持てる生態系の再生を」と題して元環境省自然環境技官、国連大学コーディネーターを経て現在パタゴニア日本支社に勤務の柳谷牧子氏が講演された。生物多様性の課題に取り組む際は、文化的・歴史的背景による思想の違いがあることを理解する必要がある。日本・アジア・中南米諸国は、人と自然の間に明確な境界線はなく人も自然の一部であるという考え方があるが、欧米では人と自然の境界が明確で領域を設定することが自然環境保護政策の主流となっており、日本での豊かな生物多様性と人々の暮らしの調和という理念は、国際社会では十分理解されているとは言えないと述べられた。

現在、パタゴニア日本支社では環境省と連携し、陸域と海域を一体的にとらえ劣化が進む日本の沿岸生態系の再生を目指すプロジェクトに取り組んでいる。自然の持つシステムを復活させ陸域からミネラル豊富な地下水が沿岸に供給され、循環が保全できるようにして海洋再生につなげたいと紹介し、さらに各地域は生態系の基礎体力が持つ柔軟な復元力が必要であると締めくくられた。

休憩後、参加者全員を3グループに分け、各グループにはアースデイ実行委員が進行・まとめ役として配置し意見交換を行った。筆者のグループは、ゴミの分別・減量化・資源化への取り組み事例の紹介、当会のモットーを紹介の上「みどりの散策路めぐり」では延べ2,000人以上の市民を案内した旨報告等を行った。その後、3グループのまとめ役からグループ発表があり、講師から総括的なまとめのコメントがあり講演会は終了しました。

今回は石神井川の清掃活動の報告もあり、身近な環境問題に対する市民の関心の高さが表れており大変有意義な講演会であったと思いました。

自由学園 秋の自然観察会に参加して

片岡 みつえ

10月24日（金）14時から観察会が始まったのですが、13時半頃から激しい通り雨が降り、私はこのたび3回目の参加でしたが、以前よりも参加者が少なかったようです。それでも、ゆったりと廻るコースを含めて7班に分かれ、最高学部の生徒が先頭に立ち、園内を案内して下さいました。

今年は暑い夏が続いたせいかわ、草花、低木が枯れているようです。園内を流れている立野川周辺では、フジバカマ、ミゾソバが大分枯れていました。しかしカラスウリの赤い房が目立って昨年よりも多くありました。図書館周辺ではシモバシラ、テンニンソウ、オトコエシ、ミズタマソウ、キバナアキギリ、フジカンゾウ、ミカエリソウ等が枯れて見分けにくいのですが、名札が立っているのもそれと判りました。

テニスコートの北面にワレモコウ、これも昨年より少なかった。ホトトギスは広く咲いて花は元気だった。キンミズヒキが珍しい。正門西側に大木のケヤキがあり、サネカズラがこん盛り生い茂っているが、実の赤さが今一で、シラヤマギクが広く場所を占めていた。

学部棟前芝生には、ゲンノショウコ、カニクサ、コブナグサが自生しているとのことだが、確認できなかった。

今回、熱心な案内には申し訳ないですが、植物が元気だと勉強や楽しさがより増すと感じると共に、草花がより見分け易い次回春に再度参加したいです。有難うございました。

○活動日誌 2025年9月3日～2025年11月00日

- 9月 3日（水）9月度定例会（芝久保公民館） 会報133号発行
- 9月 6日（土）第3回芝久保公民館まつり実行委員会
- 9月10日（水）向台植物公園作業、ダブル会
- 9月13日（土）第6回アースデイ西東京実行委員会
- 9月27日（土）公民館市民企画事業 秋の親子自然観察会
- 10月 1日（水）10月度定例会（芝久保公民館）
- 10月 4日（土）第7回アースデイ西東京実行委員会
- 10月 4日（土）第4回芝久保公民館まつり実行委員会
- 10月 5日（日）R7したのや縄文の里 秋まつり
- 10月 8日（水）向台植物公園作業 ダブル会
- 10月15日（水）みどりの散策路めぐり「まちの里山コース」下見
- 10月18日（土）公民館市民企画事業報告会（秋の親子自然観察会報告）
- 10月22日（水）みどりの散策路めぐり「まちの里山コース」本番（雨天中止）
- 10月25日～26日（日）芝久保公民館まつり
- 10月28日（火）～11月2日（日）アースデイ西東京参加団体活動展示（田無公民館ロビー）
- 11月 1日（土）第8回アースデイ西東京実行委員会
- 11月 2日（日）公民館市民企画事業 アースデイ西東京講演会（田無公民館）
- 11月 5日（水）11月度定例会（芝久保公民館）その後、ビデオ植物学習会
- 11月12日（水）向台植物公園作業 ダブル会
- 11月19日（水）みどりの散策路めぐり「向台、小金井公園コース」下見
- 11月26日（水）みどりの散策路めぐり「向台、小金井公園コース」本番
- 11月29日（土）第5回芝久保公民館まつり実行委員会
- 11月30日（日）第9回アースデイ西東京実行委員会、エンドイベント

(1)モンスズメバチ 7月から9月頃まで、この森は休みの日・学校が終わってから、自転車で必ず虫取りに来る近所の小学生の男の子たちがいた。私は会う回数を重ねると、彼らと話を交わすようになった。時々遠くの小学校の子もクワガタ・カブトムシを目当てに来ていた。中にはかなり昆虫に詳しい子もいて、毎回犬の散歩に行くと会う子から私はこの森の昆虫の様子を逆に詳しく教わる事ができた。

ある日「スズメバチの巣がある」とK君に教わった。今まで多くのオオスズメバチがいたが、今年はその仲間の「モンスズメバチ」(写真：腹の模様が黒くオオスズメバチよりやや小型)が多くいたが、まさかその巣がクヌギやコナラの太い木の根元にあるとは思わなかった。確認した後私はみどり公園課に行き、様子を話すと、練馬区の業者が退治してくれた。その後計2か所合計3か所に次々と大きくはない巣が見つかりそのたびに業者が来て退治してくれた。このようなスズメバチの営巣の事実は私にとって、この森では初めてである。やや寒くなり、樹液に集まる多くのハナムグリも全くいなくなった碧山森のクヌギの木の蜜の場所にオオスズメバチ・モンスズメバチが居た。これらのハチは来年の女王バチで、このクヌギの蜜の栄養を蓄えに来ていたのだと思う。

(2)コナラの太い枝の落下 9月15日(日)に犬の散歩で森に行き、碧山通りの北側の入口から森に入ると、見たこともないコナラの倒木に突然出くわしてびっくりした。(写真上・下はその直径20cm以上の幹の断面)この道は、近くの人たちがよく使う近道の一つで、意外と多くの人が通っている。次の日にみどり公園課に報告すると、対応が早く、その日の午後に行くと、素早く処理していただきすべての木々は撤去されてきれいになっていた。

倒木に出くわした時に、その幹の断面をくまなく調べた。コナラの15mほどの高さの部分で、20cmもありそうな太い幹の断面が腐り、風によって折れて下に落ちたようである。その原因には、4~5年ほど前のカシノナガキクイムシの食害が原因と考えられる。

その当時は多くのコナラ・クヌギ・シラカシの大木が根元からカシノナガキクイムシによって穴をあけられ、孵化した幼虫が中の組織を食害し、成虫が他の木に飛んでいき穴を開けまた巣をつくり、と何年間も食害を繰り返した。今ある太い切株たちは食害・伐採された木である。元気そうに見えるこれらコナラ・クヌギなどの木は、その後傷跡から腐朽が始まり、人が見られない高所からも腐朽が進んでいきつつあるのかもしれない。そうだとすれば、早めに、調査し、住民の危険を防止しなければならないと思われる。



モンスズメバチ



落ちた幹にぶつかり、削り落ちた枝の跡と下の落下枝 (近所の人撮影)

落下した幹

3つのモンスズメバチの巣を観察して 渡部 國夫

今年の夏は特に暑く、いつものオオスズメバチも樹液に見かけたが、モンスズメバチの巣がこの碧山森で続けて3つも見つかった。初めに森の南側、次にそのやや南の家の近く。最後に道路を挟んだ北側の柵に近いところだった。共通していることは、どの巣もコナラ類の木の根の分かれている所の大きな穴に巣がつくられていて、2つも巣があるところが2か所もあった。

虫探して児童が通るところだけでなく、犬を連れて散歩する道にも巣があり、その近くにはモンスズメバチ 2~3 匹が飛んでいて危険なのですぐに市に連絡した。業者によると、結局、この3つの巣は、見えるところだけでなく奥まで巣が繋がっているようだったが、薬剤が注入できたかどうかわからなかった。しかし確実に蜂はいなくなった。

3度目の巣の撤去の時にみどり公園課にハチ駆除の会社に、巣の切れ端でもいいのでもらってほしいとお願いしたところ、後日駆除した時に、ビニールの袋に入れて巣の破片をもらう事が出来た。

たった横9cm、縦4.5cm、重さは0.6gの破片でかなり軽くきれいな縞模様で、ハチたちの共同作業の大変さがよくわかる。この破片からどのようなことが解り、推測できるのだろうか。彼らの努力の跡が見えて貴重だ。

彼らの巣の材料には、朽ちた木や樹木の表皮をかみ砕いたものが使われるという。この蜂は木の表皮をかじり、唾液で団子状にしたもので巣を作っているという事だ。巣に戻ったハチは、集めた材料を細かくして前足で巣にはりつけていき、大きなハチの巣ができあがっていくのだそうだ。この根元の穴では丸くは作れないが、まだ多くの数ではなかったので、大きな巣ではなくて良かったといえよう。このマーブル模様は彼らの探したいろいろな種類の木の色でできていて、多分同じ色は同じ蜂が同じ木からせっせと持ってきて造った縞なのだろう。

ほかのハチの巣との大きな違いは、巣の出入口が1か所しかないところだそう。アシナガバチやスズメバチの巣はいくつもの巣穴が外にむき出しになっているので、殺虫剤の成分が巣の中に届きやすいといえるが、この蜂では届きにくく、夜間にも活動する蜂とのことで、来年のモンスズメバチの出現にはかなり注意する必要があるだろう。



巣の表面 表側

古寺巡礼

石原 誠

古いお寺で、いにしえへの想いや周りの自然に浸って瞑想する、最高の贅沢かも知れません。巡礼という時、西洋ではマリア様、日本では観音様になります。民の意識が女性を選ぶことだと思います。

観音様は三十三変化し乗り物は馬です。全国に三十三の観音巡りはたくさんあります。そのなかで古寺を巡る百観音巡礼が代表的なものです。西国三十三観音巡り、坂東三十三観音巡り、秩父三十三観音巡りに秩父の成就寺を入れて百観音としたものです。

まず初めに熊野信仰が基盤となり西国が生まれました。西国一番の青岸渡寺は熊野古道の那智から始まる中辺路の途中の那智の滝の上にあります。中辺路を歩いて何人も天皇・上皇・皇族の方々が那智大社にお参りされました。

次ですが、北条政子様は何度も熊野大社を詣で、中辺路の傍らに北条政子一行の墓地があります。修善寺のもの悲しさに浸るとき、源氏が滅びた歴史での多くの殺害を思い起こします。北条政子様のご想いとして坂東が生まれたのだと思います。

鎌倉時代の初めですから12世紀の初めに坂東三十三観音巡りができました。寺々に武士（もののふ）の想いと鎌倉時代の仏教の名残が残っています。行基の建立したお寺もあります。

最後に秩父です。秩父は江戸時代、関所が越えられない庶民の娯楽的なものとして生まれ栄えたと思われまふ。そこでお薦めですが、来年は丙午、秩父三十三観音は12年に一度の全開帳です。西武鉄道・秩父鉄道でキャンペーンが行われます。坂東や西国は泊りがけでも一日1から2か所しか詣でることができませんが秩父は一日4から5か所もできます。遠くのお寺にはバスを出したりもしてくれます。

余談ですが観音堂は本堂がふもとにあるのに常に山の頂上近くにありまふ。西国や坂東では山のふもとまでしかバスがないことも、タクシーしかなくタクシー代が一万円かかることもありまふ。コロナ後バス便がないことも、近くの茶屋がなくなっていることも多いです。みなさん自分のルーツを想い、古寺で静かに時間を過ごす楽しみを秩父から始めまふか。

因みに私も60歳の年男として秩父三十三観音巡りを12年前にし、来年もやろうと思っております。百観音は坂東をあと2から3年、西国はもう少しで10か所となり全制覇をライフワークとして取り組んでいまふ。(写真は 大谷観音：宇都宮市)



ゲンノショウコ (フウロウソウ科)

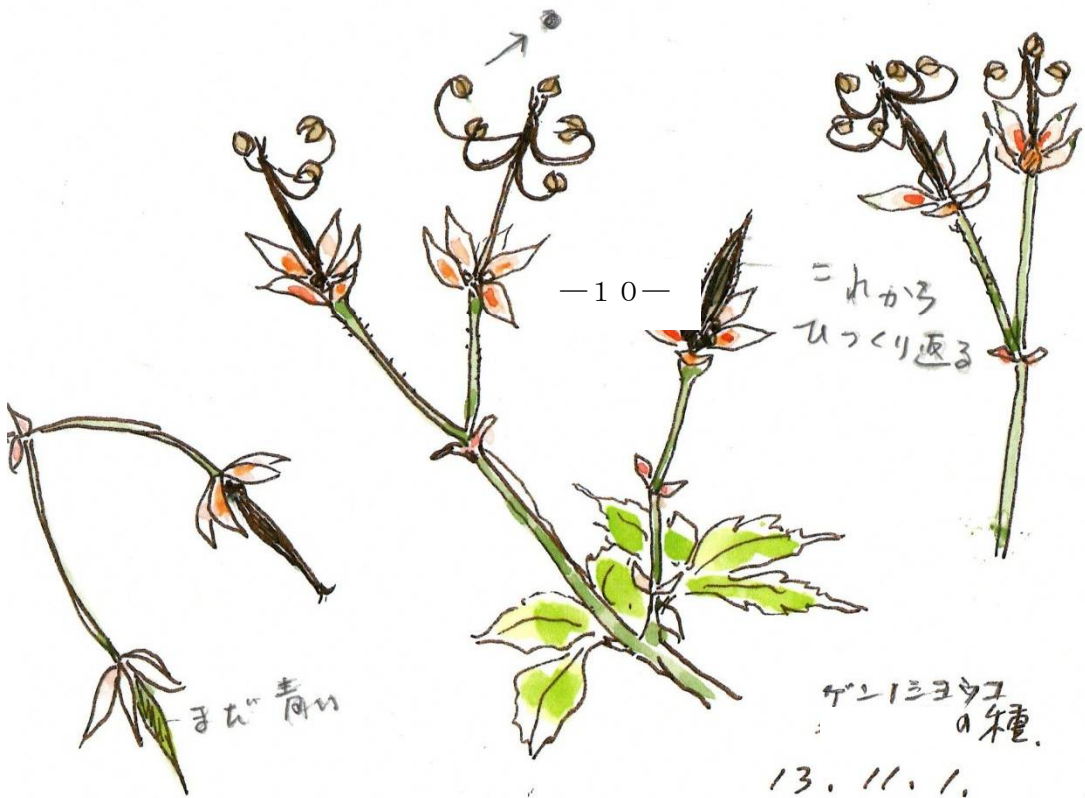
[現の証拠]の名の方が通りがいいが、本名はフウロウソウ。

腹下しの民間薬として煎じて呑むと直ちに効き目が現れると名付けられた。陽当りの良い山野に生える草で30cm位の高さになる。

葉は掌状で3つ或いは5つの切れ込みがある。7~10月直径1.5cm程の小さな花を長い茎の先に2つづつつける。東日本では白花が多いが、西の方では赤花が多い。

この絵のように果実が弾けた後の姿が祭りのお神輿の屋根のようにクルクルッと巻き上がった面白い形になるのでミコシグサの別名もある。

(文 緒方 信子)



(菅北 正子 画)

自称 日本一小さな植物公園

向台植物公園の季節の花シリーズ-27

柿 (カキノキ科)



マツバギク (ツルナ科)



柿 (カキノキ科)

アジア原産の果樹。富有柿のような上下平らな形ではなく、割と縦長で丸い果実になるこの木は禅寺丸という品種で甘柿だという。

5月頃(梅雨の少し前)、薄黄色の直径2cm位の厚みのある花をつける。

マツバギク (ツルナ科)

南アフリカ ケープ地方原産の多年草。5,6月濃いピンクの細い花びらを菊の花のように咲かせる。水分をたっぷり含んだ松葉牡丹のような細い葉を持ち、名の由来となったと思われる。花期は長くはないが日差しある時は目一杯広げた花びらがくっきり鮮やかに見える。白花もあるという。

○お知らせ

- 1 定例会 毎月の第一水曜日 9:30~ (通常 芝久保公民館)
- 2 向台植物公園作業・その後ダブル会 毎月第二水曜日 9:30~
- 3 自然観察会 毎月1回企画

—会員を募集しています—

問い合わせ先：大矢 隆治

電話：080-6816-1038

年会費 1500円

〒188-0004 西東京市西原町 4-5-37-6-110

郵便振込み：口座番号 00190-6-662630

加入者名：西東京 自然を見つめる会

編集幹事 (大矢 隆治 緒方 信子 山口 建太郎 渡部 國夫)